20 年の歩みの概要

［平成９年（1997 年）～］

１．情報ボランティアの会・八王子が発足した頃

情報ボランティアの会・八王子（以下 IVH）が発足した平成９年当時は、パソコンやインターネット利用がようやく一般市民に普及し始めた頃である。さらに、平成７年１月の阪神・淡路大震災を契機に、ボランティア活動や NPO への社会的関心が高まっていた。

そうした中で、有志が集まり、平成９年６月に「インターネット時代の情報ボランティア」と題したセミナーを八王子労政会館で開催した。セミナー後、一般市民の情報リテラシー向上を支援するボランティア団体の結成が呼び掛けられた。そして、情報通信技術の専門家や様々なバックグラウンドのメンバー10 人ほどにより平成９年９月に IVH が発足した。

当時、こうした活動は“パソコンボランティア”と呼ばれていた。しかし、パソコンに限らずもっと広い視野で活動対象を捉えた方がいいだろうという意見が有志の中から出て、会の名称に“情報ボランティア”という表現が用いられた。その後の情報通信技術の急速な発展の中で、人々が手にした機器はパソコンだけでなく、今やタブレットやスマートフォンが全盛の時代を迎えている。幅広い活動対象を表した“情報ボランティア”を会の名称に用いたのは、発足時の会員の先見の明であったと言える。

発足直後数年間の主な活動内容・実施状況は、「何でも相談会」や「市民講座」の章に記したとおりである。また、平成 13、14 年度に取組んだ「八王子市との協働による IT 講習会受講者のための相談コーナー」を「何でも相談会」の章に記したが、これは会の発展の大きな契機となった。

２．20 年にわたる様々な活動の積上げ

初期の手探りの時期を経て会の活動が軌道に乗るとともに、様々な活動を一つ一つ積上げていく会員の地道な継続的努力が始まった。そして、ボランティア団体として独自の活動スタイルを確立していくと同時に、情報通信技術の変化を読み取り活動内容を変えていくことも怠らなかった。

（１）様々な活動への取組み

ａ）会主催の活動：

企画・広報から催しの準備・実施まで一切を会の責任で行う会主催の活動として、「何でも相談会」や、座学・実習を行う「市民講座」、女性中心の「女性講座 Let’s」などに取り組んできた。

ｂ）八王子市や他団体との協働：

八王子市や他団体との協働により実施した活動としては、「IT 講習会受講者のための相談コーナー」、「障害者向け IT 講習会」、「パソコンとインターネット祭り」、「生涯学習センター講座」、「恩方老人憩の家パソコン講座」、「女性さろん」、「男女共同参画 Excel 講座」、「サイエンスドーム講座」、「八王子市民活動協議会の支援講座」、「山田小学校サタデースクール」、「外国人支援」などが挙げられる。これらの協働により実施した多くの活動を各章・節で取上げた。

c）障害者への支援

平成 14 年（2002 年）八王子市障害別パソコン講習会受託を契機として障害者支援部会を設置し、作業所や施設での学習会、個別訪問相談などを行ってきた。平成 27 年 4 月に IVH が任意団体から NPO 法人に移行するとともに、障害者支援部会は任意団体「情報ボランティア障害者支援の会」として独立した。（https://ivdss.org/）

d）会内部の活動：

会員のスキルアップのため研修会や学習会、実習などを必要に応じて適時実施してきた。初期の「いけいけゼミ」や近年の「PC カフェ」など継続的な取り組みも実施し、これにより会員のスキルアップを図ってきた。

会の運営のための取組みも、平成 12 年から平成 15 年にかけて会則および役員の選任などの規定を初め、定例の運営委員会や会計などの体制を整備した。また、会の催しを実施する際の資料の印刷や当日の受付業務などを担う総務体制などを整えていった。

（２）社会・経済・技術など時代背景の変化への対応

各章にも記すように、会の活動内容や実施状況は年々変遷してきた。その背景には、ここ 20 年ほどの情報通信技術の広範かつ急速な進歩や、その社会的な受容と一般市民への普及過程があった。IVH は、その変化を捉え、活動内容をたえず発展させてきた。各章の記載にその努力の跡を読み取ることができよう。

（３）任意団体から NPO 法人への移行

任意団体として発足した IVH であるが、平成 13 年に NPO 勉強会を実施し、その後も NPO 法人への移行の機会が何回か訪れた。しかし、その都度踏み切れずに任意団体として運営されてきた。そして、平成 25 年度の総会で「NPO 法人化検討委員会」の設置を議決し、本格的に検討を開始した。平成 26 年度には「NPO 法人設立委員会」を経て、同年 12 月 23 日に設立総会を開催し、平成 27 年 4 月 27 日に NPO 法人として正式に設立された。その間の経緯は、「NPO 法人への移行」の章に記したとおりである。

３．今後の発展へ向けて

IVH を取り巻く技術・経済・社会が常に変動する中で、それにどう対応していくかが常に問われてきた。IVH は、20 年の長きにわたり様々な局面を経てボランティア団体として独自のスタイルを確立してきたが、それは終わりなき挑戦でもある。

特に、近年の通信技術の進歩や人工知能の実用化など、情報通信技術が広範かつ急速に経済社会の不可欠のインフラとなり、世界的な激動の時代を迎えようとしている。こうした状況は、スマホ決済（キャッシュレス社会）のように、否応なく人々の日常生活に入り込みつつある。仮想通貨に見られるように、光と影が交錯する世界でもある。「市民の情報リテラシー向上」という大きな目標は変わらないとしても、新しい状況への対応が大きな課題となっている。

また、会の中を見渡すと、会員の高齢化や会員数不足などへの対処も今後の課題として残されている。IVH は、これまでと同様にそうした課題を一つ一つ解決していくであろう。

地域ニュース

（第三種郵便物認可）

マルチメディア挑戦の障害者など支援

「情報ボランティア」始動

定期的に相談会　福祉団体への支援も

八王子で結成

マルチメディアに挑戦しようという障害者や高齢者などを支援するボランティア団体「情報ボランティアの会」＝矢沢雅彦代表＝が八王子市内に誕生、今月二十四日には、同市明神町の八王子労政会館で、初めての活動「パソコン何でも相談会」を開催した。

相談会では、参加者から次々と質問が飛び出した

障害者や高齢者だ、情報の壁を飛躍的に広げる「マルチメディア」を活用できるように支援する「情報ボランティア」は、米国などではすでに一般的な存在。

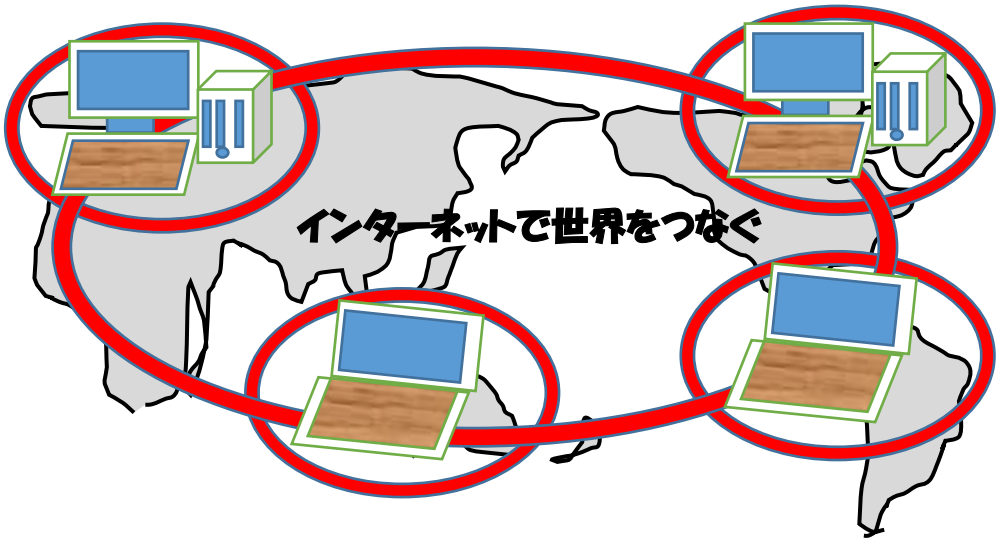
同市大和田町に住む同会代表の矢沢さんは、コンピューターソフトのプログラマー。身体障害者の介助ボランティアに参加し始めた四年ほど前から、「障害者団体とボランティアを結ぶ情報ネットワークが必要だ」という思いを抱き、八王子市ボランティアセンターで知り合った同市めじろ台、著述業豊島直人さん（五〇）と、「いつか、八王子にも情報ボランティアのグループを作ろう」と語り合っていた。

そして、今年六月十五日、矢沢さんと豊島さんは八王子労政会館で「インターネット時代の情報ボランティア」と題したセミナーを開催。米国で情報ボランティアとして活動した経験を持つ学生らの講演の後、来場者に会の結成を呼び掛けたところ、企業のシステムコンサルタントや数学専攻の大学院生などのほか、定年後に趣味でパソコンを始めた人など十人以上が名乗りを上げた。

いずれも、パソコンについては「腕に覚えのある」メンバーばかり。「使いこなせないパソコンがほこりをかぶっているかと思うとしのびなくて」「自分の勉強にもなると思ったから」と、参加の動機は様々。

ほとんどの人がボランティアは初体験だが、「自分の得意なことで、困っている人の役に立ちたい」という思いは同じという。

同会は九月に正式に発足し現在、メンバーは十一人。一昨日に開いた「パソコン何でも相談会」には、市民を中心に八人が参加。パソコンの選び方やインターネットへの接続方法など、日ごろの疑問が次々と飛び出し、メンバーは一つひとつの質問に丁寧に答えていた。

矢沢さんは「自分の能力を生かしたいエンジニアや学生はまだまだいるはず。もっとたくさんの人に情報ボランティアとして活躍して欲しい」と話しており、今後はこの相談会を定期的に続けながら、福祉団体などへの支援やボランティア情報の提供などを目指していくという。

読売新聞 1997.11.26